



「日本における作業療法教育の歴史」

札幌医科大学衛生短期大学部 作業療法士 鈴木 明子 著

この書を読んでいる時は時間と空間を忘れていました。それは正に出生の秘密を知る楽しさと著者と対話(?)する楽しさでした。

膨大な資料の収集のもとに書かれた歴史書は、我々作業療法士の現在立っている足場を明確に浮き彫りにしてくれます。作業療法は学問的には発展途上領域ですが、作業療法のバックボーンとなる心意気がこの書のどの頁を開いてもふつふつとわき上っており、著者の作業療法への思いが読む者の心を打ちます。

書は第1～8章に分かれており、その内容は、1章作業療法の流れ、2章精神科作業療法の進歩、3章アメリカのオキュペーションセラピーの発展、4章わが国の作業療法の準備時代、5章作業療法の現状と課題、6章作業療法の発展とその影響、7章欧米のリハビリテーションと日本のリハビリテーション、8章将来に向かって作業療法士の果たすべき役割、となっています。また格別興味をそそるのは資料集の中のインタビューです。日本に作業療法士を誕生させるため産みの苦しみを積極的に引き受けられた方々の御努力を知るにつけ、一人で育

っているようなつもりになっている我々にショックと目まいを与え、いかに成長していかなければぬかということを生を受けたものの責任として感じているものがあります。

諸外国で形を成した専門職作業療法が、文化的背景の異なった日本に種をまかれたことは、土壌そのものの矛盾や課題をもって成長に影響してきます。歴史を知るとはそれらの課題を客観的に見る目を養ってくれるようです。著者の迫力に圧倒されつつ書と対話しながら読み進み、我々は得難い書を手にすることが出来たと心からうれしく思うものです。日本作業療法士協会20周年の期にこの書が発刊されたことは大変意義深いものがあります。作業療法士以外の医療関係者の方々にも一読も二読もおすすめしたい書です。

(A5, 302 頁, ¥ 4,000, 千 400, 北海道大学図書刊行会*, 1986)

(京都大学医療技術短期大学部 作業療法士

木村 信子)

(* 千060 札幌市北区北8条西8丁目7 北大生協会館内)